

# いこいの 村

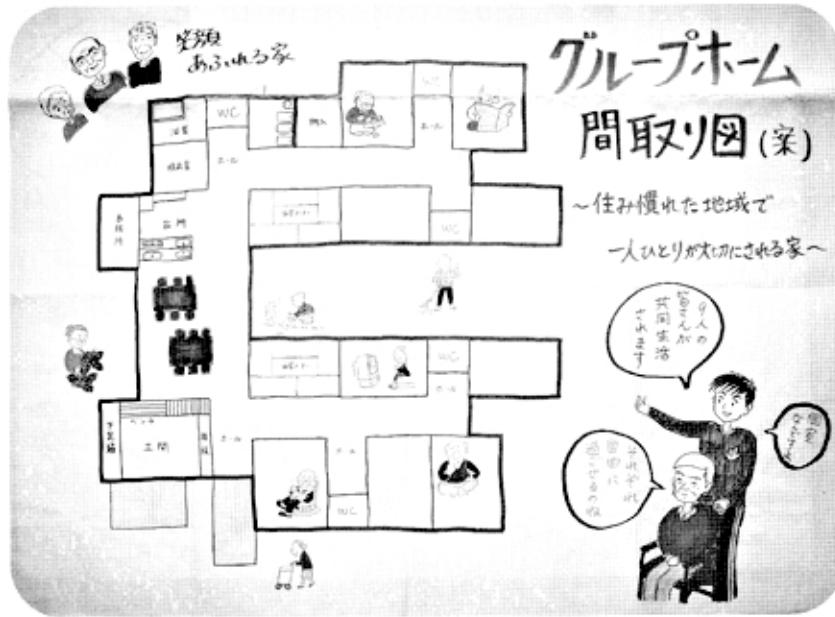
題字 梅の木寮（ユニット型） 藤野チヨ

2010年（平成22年）1月20日発行

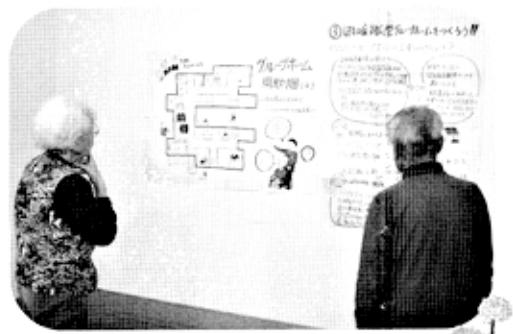
## 第332号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター  
所長 柴田 浩志  
編集 いこいの村編集委員会  
〒629-1242  
綾部市十倉名畠町久瀬谷2番地  
TEL (0773) 46-0101  
FAX (0773) 46-0610  
<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>

# 2011年認知症対応型 グループホーム建設へ着手！



住み慣れた地域で一人ひとりが大切にされる家



「こんな家ができるのね」

綾部市の要介護認定者数は、約二二〇〇名を数え、その内の約二二〇〇名の方が認知症です。（綾部市『第五次高齢者保健福祉計画』より）歳をとつても「住み慣れた地域で暮らし続けたい」という願いを実現すべく、認知症対応型共同生活介護事業（認知症対応型グループホーム）の開設準備を進めています。このグループホームは、綾部市の『第五次高齢者保健福祉計画』に盛り込まれています。

「住み慣れた地域で一人ひとりが大切にされる家」の理念を掲げ、現在、間取りや支援内容などについて検討を積み重ねています。

定員は九名で、家庭的な雰囲気の中でお暮らしていただけます。場所は、口上林木材跡地（十倉名畠町）です。今年中に建設を始め、二〇一一年度のオープンを目指します。場所は、口上林木材跡地（十倉名畠町）です。今年中に建設を始め、二〇一一年度のオープンを目指します。その内容について、今後、紙面を通じてお知らせします。（認知症対応型共同生活介護開設準備チーム 渡部泰之）

# 「笑つて年越しや」

「初めてやで楽しみや」

当日の朝、利用者をお迎え

「身の振りが柔らかいわあ」と三扇さん大絶賛。  
続いては三扇さん、出せやしの中、高座に上がられて一席。と思いつか、その前「顔

・日々の暮らしに笑顔を・

綾部東部ティーサービスセンターでは、十一月に日本舞踊と落語を楽しむ催しを開き、「ご利用の皆様に楽しんでいただきました。



「活躍され、  
「」多忙の中、お  
越しいただきました。  
した。

この催しは、

勘章師匠からお  
話を頂戴したの  
が始まりでした。

勘章師匠は、市  
内施設はもとよ  
り、多くの施設  
に慰问に行かれ、  
舞踊の披露をさ  
れていました。当  
施設の利用者の  
間で、お世話になつたのは、  
綾部在住の日本舞踊の藤間流  
名取師範代、藤間勘章(かん  
しょう)師匠と、福知山在住  
の落語家、桂三扇(さくせん)  
様です。田舎から様々な方面  
いただいていました。

「さすが、名のある人やな」



と早くも午後のプログラム  
を楽しみにされていらる様子が  
伝わってきました。  
会場にはティーサービス利用  
者だけではなく、梅の木寮の方々も集まり大盛況。

まずは勘章師匠の踊りから。  
艶やかな出で立ちと華麗な舞  
に、盛んに拍手が沸き起ります。  
終始、笑いの渦の中、演目  
は勘章師匠の次の踊りへ。先  
程じはうつって變つて剣技が入  
る渡世人の人情物の舞」、「  
さつきも今も同じ人か?」、「  
男の人みたいや...」と利用者同士が眼を合わせて  
口説つぽどの迫真の舞でした。

「また観たいなあ」

観賞された皆様からは、「  
良いものを観せてもらひた」  
「口の芸を間近に観られて  
嬉しかった」

「笑つて年越しや」

「また観たいなあ。企画して

よ

との声をいただきました。

日々、多くの方々に支えて

いただいているティーサービス、  
今後も「利用の皆様に「笑顔  
で元気に」過ごしていただけ  
る内容」で努力いたします。

(綾部東部ティーサービスセンター)



「元気に」お廻りしていただき  
と励ました。そして拍手喝采で幕を閉じま  
した。

「笑顔が大切。毎日、笑顔で

「さすが、名のある人やな」

「笑顔が大切。毎日、笑顔で

勝山貴至)

## 冬の感染症対策



## 感染性腸炎

## 『ノロウイルス』感染の特徴

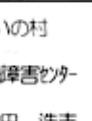
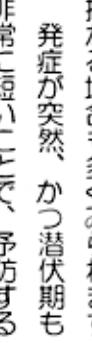
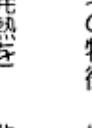
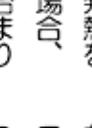
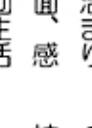
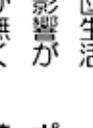
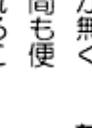
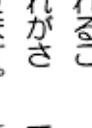
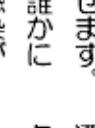
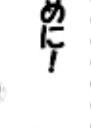
突然の嘔吐、下痢、発熱を

主症状として、多くの場合、  
一～三日以内に症状は治まります。病原性は弱い反面、感  
染力は強力なので、集団生活の場においては重大な影響が  
もたらされます。症状が無く  
なってからも一～三週間も便の中に原因菌が排泄される」  
とが分かっており、それがさ  
らに感染期間を長引かせます。一般家庭でも、家族の誰かに  
発症すると、家族中に感染が起きし、とても恐ろしい感染  
症のように思われている方も  
多いと思います。

## 『牡蠣にあたつた?』

皆さんには「んなセリフ聞いた  
ことありますか。また『流行の  
腸風邪がうつった』という言葉も。この「牡蠣にあた  
つた」とそれが『ノロウイルス』  
のしづせなのです。『腸風邪』の中にもこれらのウイルスが  
原因菌となっているケースが  
少なくありません。つまりこ  
れらのウイルスは古くから、  
かつ、日常的に身近な所に存  
在し悪さをしていたのです。拡がる場合も多々みられます。  
発症が突然、かつ潜伏期も  
非常に短いことで、予防することは困難なのですが、対処  
のポイントを抑えたいことで、  
拡がりを防ぐことは可能です。いよいよ、明けましておめ  
でとうございます。昨年末は、いよいの村のし  
め縄の生産や購入に協力い  
ただき、誠にありがとうございました。  
お陰様で、栗の木ポイントは手洗いと消毒  
薬!吐物や便などの汚染に対し  
ては、消毒薬として塩素系の  
漂白剤商品例 キッチンハイ  
ター、フリーチ等を使います  
(図み参照)。なにより、食事の前、ト  
イシの後、介護の後の手洗  
いの徹底が、予防と拡大防  
止に最も重要なことを

忘れないで下さい。

さて、一〇一〇年一月一日  
の私の仕事始めは東部地域の  
高齢者の方々のお宅に、おせ  
ちを持って訪問することから  
始まりました。一日は前夜か  
ら雪が降り積もり、山間部で  
の道路事情を心配しましたが、  
一時間半をかけ、七軒のお宅  
への配達を無事終えることができました。そして、お盆には栗の木の仲間に新年あ  
いさつをさせていただきまし  
た。多くの関係者とともに築い  
てきた、いよいの村は本年五  
月に一十八周年を迎えます。いよいの村  
聴覚言語障害センター  
所長 柴田 浩志一年の計は元旦にあり。今  
年こそ、実現したい計画が、  
頭の中を駆け巡ります。景気  
が一段と悪化し、社会福祉を  
めぐっては、利用者負担の問  
題、福祉を担う職員の不足等、解決すべき課題が山積してい  
ますが、一刻も早く「人を大  
切にする社会」にしなくては  
との思いを痛感します。  
一九八一年に二十一人の  
職員でスタートしたいよいの  
村は、事業内容も広がり、現  
在約百八十人の職員が在籍す  
るに至りました。聴覚障害者  
高齢者のニーズにお応えし、  
ねばり強く実践を重ねるには、  
一人ひとりの職員が持てる力  
を豊かに發揮することが重要  
です。福祉は人なり。今年は、  
子育てや親の介護等に配慮し  
た働きやすい職場、健康で意  
欲を持って働く職場作りに  
力を尽くしたいと思います。本年もよろしくお願い申し  
上げます。(3) トイシの後や処置、  
介護の後、食事の前  
には石鹼と流水で  
手を洗いましょう。① 流行期、牡蠣などの  
一枚貝は生食を避け  
火を通して食べましょう。② 嘔吐物や便などの  
排泄物は直接触れず、  
すぐに紙などで覆います。汚染した箇所は、  
希釈した塩素系漂白剤  
を用い、消毒・ふき取り  
をしましょう。(4) いよいの村感染症  
対策委員会 阪田正子トイシの後や処置、  
介護の後、食事の前  
には石鹼と流水で  
手を洗いましょう。

